

## 六甲山の緑地保全に関する調査研究

神戸女子大学 家政学部 家政学科

入江 夏水

## 1. はじめに、研究背景

近年、子育てグッズはますます多様化し、使用期間が短く、使い続けることができないことが課題となっている。子ども椅子までもが使い捨てになっている。

子ども用ローチェアとは背が低いベビーチェアを指し、適齢期は6か月から3歳ごろである。主に木製、プラスチック製、スチール製の椅子がある。子ども椅子を自分で製作するには、ワークショップへの参加や製作キットなどがある。愛着のある子ども椅子として、旭川大学大学院特任教授の磯田健一氏が取り組んでいる「君の椅子プロジェクト」がある。これは新しく生まれてきた子供たちに向け、生年月日などが刻印された「世界で一つだけの椅子」を送る活動である。

本研究では、木製の子ども用ローチェアに着目し、木製であることで愛着を持って長く使い続けることができるのではないかと考えた。そして、親子向けカホンづくりワークショップを開催し、座れて楽器にもなるカホンを子ども用ローチェアに利用することの可能性について検証することを目的とする。

## 2. 調査方法

## 2.1 カホンワークショップの実施

2024年10月20日に神戸市立森林植物園ぼうけんの丘にて、六甲山の間伐材を用いたカホンづくりワークショップを開催した。内容は、事前学習として間伐材について・間伐とは・カホンについての紙芝居、親子でカホンづくり、その後製作したカホンで演奏会である。また、事前準備として、木材の選定や運搬、当日ワークショップで指導係となる学生を対象に、学生向けのカホンづくりワークショップも開催した（表1）。

表1. 事前準備一覧

7月3日	8月22日	9月26日	10月15日
選定	運搬	学生向け ワークショップ	切り出し
			

## 2.2 アンケート調査

カホンづくりワークショップに参加した保護者（7名）、学生（53名、17～23歳）、子育て経験者（44名）を対象にカホンと子ども用ローチェアに関するアンケート調査を行った。

表 2. カホンと子ども用ローチェアに関するアンケート概要

日時	対象	内容
10月20日	カホンワークショップ参加者 (7名)	・カホンへの意識の変化 ・所持している子ども椅子について
10月30日～11月12日	学生 (53名)	・カホンの知名度 ・幼少期使用していた子ども椅子について
10月30日～11月12日	子育て経験者 (44名)	・カホンの知名度 ・どのような子ども椅子を使用していたか

## 3. アンケート調査の結果と考察

### 3.1 カホンづくりワークショップ参加者

子ども用ローチェアを「持っている」と回答した人（7人）の素材は、多い方から木製4人、スチール製2人、プラスチック製1人となった。また、実際にカホンを製作し、子ども椅子に向いているか感じたかに関しては、「はい」（6人）の理由は「楽しめるから」、「高さ、サイズがちょうどいい」、「いいえ」（1人）の理由は「バランスが悪い」という意見が挙げられた。

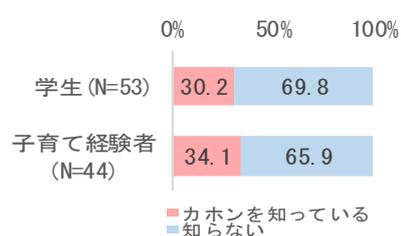


図 1. カホンを知っているか

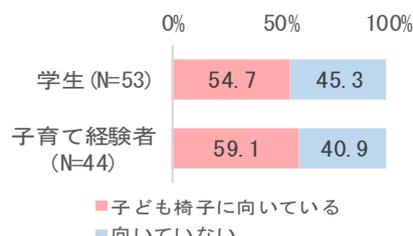


図 2. 子ども椅子に向いているかどうか

### 3.2 学生向け子ども用ローチェアに関するアンケート

カホンを知っている学生は「はい」が30.2%、「いいえ」が69.8%。カホンの画像を見て、子ども椅子に向いているかどうかに関しては、「はい」（54.7%）の人は「座れそう」、「椅子に形が似ている」で、「いいえ」（45.3%）は、「怪我をしそう」、「角が危ない」という意見が挙げられた（図2）。素材別にみた使い終わった子ども椅子の状況は、木製は「処分した」が少ない（図3）。

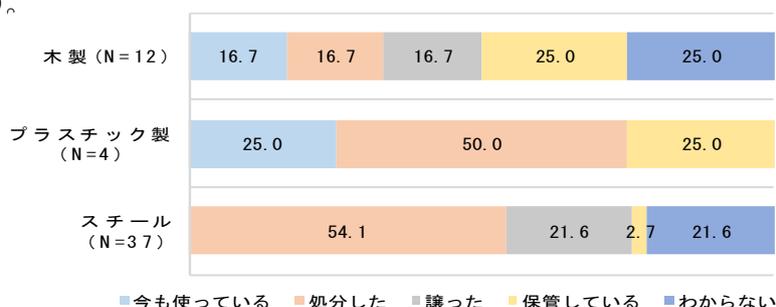


図 3. 素材別にみた使い終わった子ども用ローチェアの状況（学生）

### 3.3 子育て経験者向け子ども用ローチェアに関するアンケート

カホンを知っている人は「はい」が 34.1%、「いいえ」が 65.9%。カホンの画像を見て、子ども椅子に向いているかどうかに関しては、「はい」(59.1%)の人は「座れる楽器として楽しめそう」、「踏み台にもなりそう」で、「いいえ」(40.9%)は、「背もたれがなくバランスを崩しそう」、「丈夫さがわからない」という意見が挙げられた(図 2)。素材別にみた使い終えた子ども椅子の状況は、木製は「処分した」が少ない(図 4)。

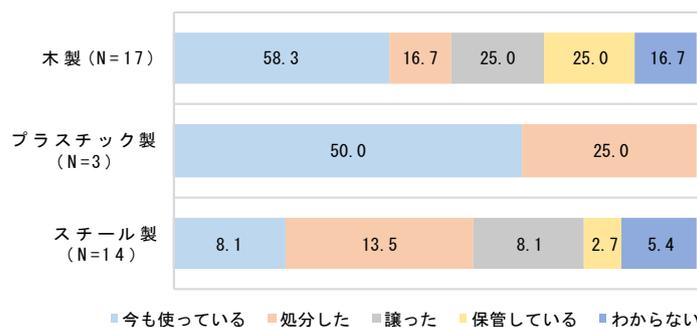


図 4. 素材別にみた使い終えた子ども用ローチェアの状況 (子育て中・子育て経験者)

## 4.まとめ

本研究では、神戸市立森林植物園・ぼうけんの丘において、森林植物園内で出た間伐材を使用し、親子向けカホンワークショップを実施した。アンケート調査の結果明らかになったのが以下の3点である。

### ①カホンを子ども用ローチェアに使用するには修正が必要である

ワークショップで作成したカホンは角が残ったままであり、怪我をする危険がある。また背もたれ・肘置きがない、足がつかないなど、子どもがバランスをとることが難しく、適齢期の子どもが一人で使用するには難しい。

### ②使用する場面が限られる

カホンを子ども椅子として利用するにはメイン(食事用)以外であるとよい。背もたれ・肘置きがなく、足がつかない椅子は、幼少期の姿勢を作っていく段階の子どもには不向きである。遊びや腰掛け、踏み台等の位置付けであると利用しやすい。

### ③木製の椅子の場合、大切に使用する人が多い

木製の子ども椅子を使用していた人の割合は、プラスチック製、スチール製に比べて少数だったが、「処分した」と回答した人の割合は最も少数だった。木製椅子の方が愛着を持って長期間使用しているということがわかった。

今回のワークショップでは六甲山の間伐材を使用しているため、節などが残ったままであったため、産地が分かるという点も愛着を感じる一つの要因であると考えられる。カホンをそのまま子ども椅子に使用することは難しいという結果となったが、地元で発生した間伐材を使用し、親子で取り組むワークショップを開催することは、愛着のあるものづくりを可能にすることが明らかとなった。

## 5. 今後の提案

### 5.1 カホンの改善点

本研究の結果に基づき、子ども用ローチェアに使用できるように改善点を整理した(表3)。

表3. カホンの改善点

改善前	改善後
角が危ない	角を丸くする
背もたれがない	背もたれを作る
座面が高く不安定	座面を低くする 底に滑り止めシールを貼る

### 5.2 子ども用ローチェアに使用できるカホンの提案

改善点を取り入れ、子ども椅子として使用できるカホンを提案する。製作品は以下の通り(図4、図5、図6)。

#### ◎材料

##### \*木材

A:260mm×270mm 2枚 B:240mm×270mm 2枚

C:270mm×270mm 1枚 D:400mm×270mm 1枚

\*その他・スナッピー:1つ・やすり・木工用ボンド

・ビス:40mm×10、25mm×28、16mm×2

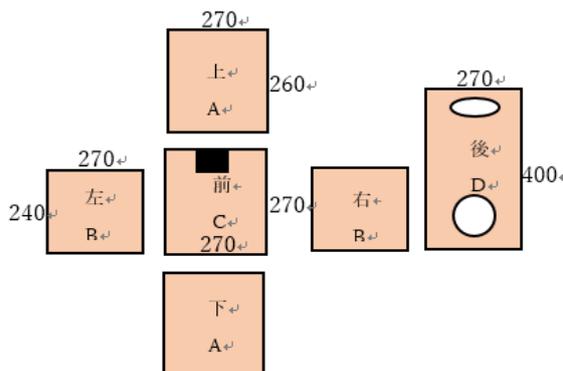


図4. 子ども用カホン展開図

#### ◎作成手順

- ①Aの板の長い方に、ビスを6本たて、貫通しない程度にビスを打つ
- ②木工用ボンドをBの板の長い方に塗り、①の板のビスを打った部分の下に合わせる  
(図のようにもう1枚のBの板を使用すると安定し、作業がしやすい)
- ③ビスを打ち、AとBの板を固定する

- ④同じように①②③を繰り返す
- ⑤座面部分にスナッピーを取り付ける
- ⑥スナッピーをつけた面に C の板を取り付ける
- ⑦D の板に穴をあけたい個所を決め、約 1 0 c m の穴をあける  
(中央より下あたりにする)
- ⑧D の板、上 3 c m ほどあけて持ち手になる部分を作る
- ⑨穴をあけた D の板を背面に取り付ける

### 5.3 子ども用カホンの工夫点

子ども用カホンを製作するにあたり工夫した点は、背もたれをつくる、座面を安定させる、持ち手を作る、軽量化である。

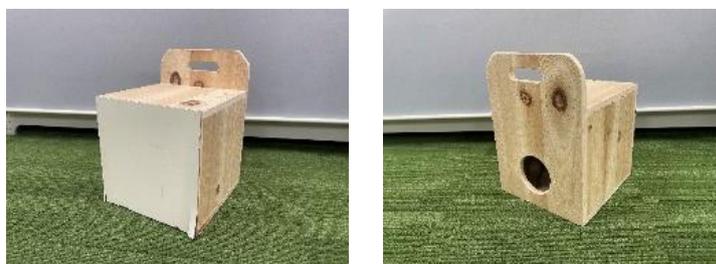


図 5. 子ども用カホン

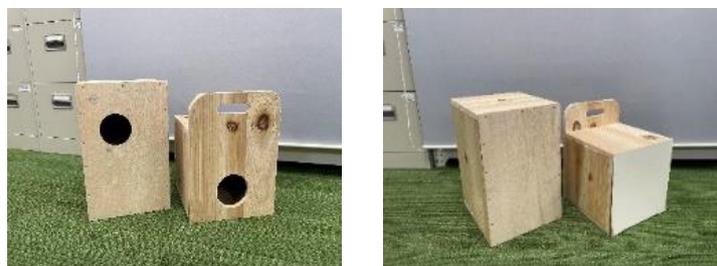


図 6. ワークショップで製作したカホンとの比較